2022/10/25

**巻頭言**

**中山家当主　中山幹朗**

［原文］

門長屋の屋根瓦が長年の経過により、ひび割れが生じ、雨漏りが生じたため、40年程前に母屋の屋根瓦の修理をお願いした山陽瓦の石井社長に相談にお伺いしました。その時は、仮補修でシートを敷いて、その場をしのいでいたのですが、2,3年でシートが破れた為、再度相談にお伺いしました。

そうしましたら、このままでは、屋根板等が雨水に濡れ、その内木材が腐り、屋根が落ち、最後は、この家が廃墟になると云われました

このような建造物は保存するに値するので、後世に残した方が良いとのことでした。

丁度その頃、石井社長は八幡神社の改修工事を自費で行っていました。

その時、これが終わったら、次は中山家の改修を自費で手掛けると云う事でした。

家は今は他人にわたっているので、その方の了解を得る必要があるとの事、そこで、今の所有者である三宅さんと石井社長と私、３者で話し合いを持った結果、改修が進むことになりました。現在、その改修が進行中であります。

［修正］

**「この建物は保存に値する」の一声に！**

**中山家当主　中山幹朗**

●2013年頃、長屋門の屋根瓦が長年の経過により、ひび割れが生じ、雨漏りがしたため、(株)山陽瓦の石井社長に相談しました。そのときは、仮補修でシートを敷いて対応していただきました。

●実は、40年ほど前(1980年頃)、石井社長には、母屋の屋根瓦の修理をお願いしたことがあり、その縁で、相談したのです。

●2016年頃、シートが破れたため、再度相談にお伺いしました。「このままでは、屋根板等が雨水に濡れ、そのうち木材が腐り、屋根が落ちてしまう」との見立てで、早晩、この家が廃墟になると宣告されました。さらに、このような建造物は保存するに値するので、後世に残した方が良いとも忠告もしてくれました。

●ちょうど、その頃(2016年頃)、石井社長は酒津八幡神社の石段改修工事(工事費用は社長の個人負担)にかかっており、「これが終わったら、次は中山家の改修工事だ(工事費用は社長の個人負担)」と言ってくれました。

●当然ながら、改修工事は、今の所有者に了解を得る必要があります。そこで、今の所有者である三宅さん、石井社長、私、３者で話し合った結果、改修が始まることになったのです。現在、その改修が進行中です。